

大菩薩嶺黒岳山行報告

M2 田中李樹

○日程

2013 年 5 月 25 日～26 日

○参加者（敬称略；5 名）

M3 荒川 M2 田中 久本 聖路加看護大 4 年 進藤 東大理学部 3 年 今村

○行程

一日目

09:26 甲斐大和駅 10:20～(バス)～11:00 上日川峠～11:30 福ちゃん荘 12:30～13:45 雷岩～14:15 大菩薩嶺～14:30 雷岩～15:00 賽の河原～15:15 大菩薩峠～16:00 福ちゃん荘(テント泊)

二日目

福ちゃん荘 6:00～7:00 大菩薩峠～7:30 石丸峠～9:00 小金沢山～10:00 牛奥ノ雁ヶ腹摺山～11:30 黒岳～13:00 湯ノ沢峠～14:00 湯ノ沢峠登山口～15:00 やまと天目山温泉 16:16～(バス)～甲斐大和駅

○本文

夏の本格的な登山シーズンを前に、テント泊の練習を兼ね、一泊二日の山行を企画した。期待していた下級生の参加がなかったのが残念であったが、4 年生以上の部員でも案外テント泊の経験は少なく、よい機会にはなったかと思う。梅

雨入り前の土日ということもあってか、甲斐大和駅では多くの登山者がバスを待っていた。バス会社が便を増発していたものの、すぐに満員になり二度程バスを見送った。結局バスに乗れたのは計画より 30 分遅れになっ





てしまった。登山口から福ちゃん荘は30分程で、林道の並走する登山道を歩いた。林道は福ちゃん荘まで伸びており、小屋泊の場合福ちゃん荘すぐの駐車場を利用することも出来たようだ。ここで

明るいうちにテント設営まで済まし、荷物をデポして山頂を目指した。雷岩までの登りはやや急で、多くの登山者がいた。10人以上の大きなパーティが目立ったように思う。

雷岩にも大変多くの登山者がいて賑わっていた。この後進んでいく大菩薩峠やダム湖である大菩薩湖を望み良い眺めであった。



ここでしばらく休憩し、大菩薩峠山頂に登った。山頂までは15分程度で簡単にたどり着くことが出来た。山頂は樹林に囲まれた地味な場所で休んでいる登山

者もあまりいなかった。すぐに雷岩に引き返し、大菩薩峠を目指した。大菩薩峠までは笹原を抜け、右手に大菩薩湖を望み、小気味よい道であった。賽の河原を抜けほぼ予定通りの時間



に大菩薩峠に到着した。大菩薩峠すぐのところには介山荘という山小屋がありここでしばらく休憩した。本当はこの山小屋で泊まりたかったのだが、テント場がなく計画の段階で断念した。大菩薩峠からは、これまで抜けてきた大菩薩峠までの笹原を望みよい景色だった。しかし、晴れてはいたもののやや霞がかかっており、間近に見えるはずだった富士山を見ることは出来なかった。翌日も大菩薩峠を通る予定だったため、その時に期待し下山することにした。



福ちゃん荘までは多少急なところもあったが、車でも通れなくはなさそうな広い道だった。福ちゃん荘にもほぼ予定通りの時間に到着し、この日の行程を終えた。

翌日は 4 時頃起床、朝食を摂り 6 時頃福ちゃん荘を出発した。前日の道を引き返して大菩薩峠に到着。前日に続きやや霞がかかっていたものの、雲海に浮



かぶ富士山をкаろうじて望むことが出来た。写真を撮ってすぐに石丸峠へ向け出発した。石丸峠までも、大菩薩嶺から大菩薩峠までと同様、笹原を抜ける景



色の良い道だった。石丸峠を過ぎたあたりから、急に登山者の数は少なくなり、樹林帯を通るようになった。ここまでは一気に様子が変わり、



多少道の分かりにくいところもある、登山道らしい雰囲気になった。時折笹原に出たり樹林帯に戻ったりしつつ、小金沢山を抜け牛奥ノ雁ヶ腹摺山に到着した。面白い名前の山だと話しながら歩いてきたが、思いのほか眺めもよいピークだった。この日は行程がやや長めだったため、ピークの度にゆっくり休憩しつつ先に進んだ。全体的に起伏の少ない道だったが、倒木が多く歩きにくい場所もあった。



黒岳には予定より少々遅めに到着。ここまでのピークと比べ眺望もあまりよくはなかったため、早めに下山を開始した。この後はひたすら下るだけだったが、湯ノ沢峠までの道が急な上に深くえぐ



れている場所もあり、多少歩きにくかったかもしれない。また、途中からガスがかかり始めたため先を急ぐことにした。湯野沢峠からは何度か沢を渡り、暫



く歩いたところで林道に出た。最後は林道を一時間以上歩いた。もしかしたら今回の行程でここが一番つらかったかもしれない。林道歩きの後、やまと天目山温泉に到着し、東京に戻る前にここで汗を流した。アルカリ性

の湯らしく、ぬるぬるする独特の温泉だった。

最後にガスが出てはきたが、全体を通して雨に降られることはなかった。多少霞がかかっていて、周辺の山々を期待していた程見渡すことはできなかったが、それでも笹原を抜ける登山道や湖を見下ろす眺めは十分に魅力的であった。また、石丸峠までは多くの登山者がいるメジャーな山という感じだったが、その後の行程で出会った登山者は10人以下だったかもしれない。大菩薩峠の笹原のイメージとは異なるが、これはこれで風情のある登山道で、一泊二日でここまで足を伸ばした甲斐はあったかと思う。